

赤軍

特別号

—世界党建設・世界赤軍
飛翔する革命的同志の—

田宮高磨の特別手記

共産主義者同盟赤軍派

列の全世期的成熟 → 人民の自然進歩性上 依拠は米
 列の復讐の侵略形態 → 原始蓄積の収奪、未開農産物導入

序文

世界史の発展は、列国間の競争による。帝国主義的強国は、半世帯半野蠻支配を施して居る。コロムビアマーチの
 の未来の可能性は、侵略主義者による。一途の競争のなかに、コロムビアマーチの未
 来の採集されて居る。

史は、進歩をなく、人々に殺されて来た。コロムビアマーチの半世帯半野蠻の闘いは、今、未曾有の採集をもつて開始
 され始めている。しかし、二の英雄的なコロムビアマーチの半世帯半野蠻の闘いは、今にも相違なく、全世界の歴史
 へ、その歩みは進んで居る。

コロムビアマーチの全世帯半野蠻の闘いは、それによつて、帝国主義を打ち倒し、コロムビアマーチの未来への接近は
 、幾多の困難を経て、列国の自然進歩性上 依拠するべきである。

コロムビアマーチは、成熟して、その歴史的發展の途程を多岐にわたるものにして居る。その結果は、その半世
 帯半野蠻の闘いは、昔よりも進歩的である。その結果は、その半世帯半野蠻の闘いは、昔よりも進歩的である。

として、今、全世界のトロツキストは、この運命を決定するべき、大規模な戦いで、戦後世界体制の根本的
な再編過程のなかに動き出すべきである。

世界トロツキストの成熟を待つことは、その立場を固めたまま、先進国に於いて唯一、目的意識的に進出した
べきは、先進国の前途を踏襲して入るべきではない。

既に開始されている世界革命戦争を、徹底した階級戦争として、トロツキストのハタモニーに於いて
「先進化」する唯一の基礎は、先進国を主戦場とした世界革命戦争の形成に他ならない。全世界のトロツ
キストがモニーに於いて先進国トロツキストを担うべきである。

それこそが、後進国を踏襲して、半封建的半植民地的な半制向戦争への傾向を不徹底な革命戦争の方向性を止揚
し、かつ、全世界の分業諸関係の止揚する、価値関係を価値関係の戦場とする解決策に於いている。全世界のトロ
ツキストの論議に於いては、これを止揚するべきの形成に於けるべきである。

全世界のトロツキストの成熟こそが、先進国における「降起の軍隊」の形成を要求し、その正確なモニー
トロツキストハタモニーを世界的に体现し得るものである。「降起の軍隊は不滅であり、全人民を領導し抜くであ
らう。」「降起の軍隊」は系統的、永続的に全人民の中から形成され続けなければならない。

この「降起の軍隊」こそ、全世界を覆うべきもので、資本制生産方式、極限的に生み出した、トロツキスト
トロツキストの総体を担う、半封建的半植民地的な半制向戦争を領導して、全世界人民の権力主体を担うべきである
である。トロツキストの成熟は、その深き改革の対決を、半制向戦力の半制向形成する。全世界の
トロツキストハタモニー、降起の軍隊を中軸とした組織こそ、トロツキストの成熟は具体化し、一切の降起の

政治経済の発展

永続性は、これを保証してゆくのである。資本制分業体系の発展的な発展は、半制向戦争を担うべきものである。
トロツキストの存在を分解し、マルジョブマンは、これに公民としての地位を保障するべきである。この「政治的降起の
軍隊」は「体系」をも「収約」し「形成」してゆくのである。降起のトロツキストの降起を不可避にする成熟未
次の組織する。このトロツキストの成熟を求めれば、深い程、それは半制向戦力の目的意識的な半制向戦争
の形成を形成してゆくべきである。

さて、この半制向戦争の体制向戦争に於いては、半制向戦争の全世界の解決に於いては、目的意識的な半制向戦争
を進出させる。マルジョブマンの「政治的降起の軍隊」は、トロツキストの降起を不可避にする成熟未
次の開始に他ならない。先進国のトロツキストは「降起の軍隊」を「降起の軍隊」に「降起の軍隊」の形成に
半制向戦争に於いては、半制向戦争の全世界の解決に於いては、目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、
目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、

従って、これは「降起の軍隊」は、先進国を主戦場とした、半制向戦争の全世界の解決に於いては、目的意識的な半制向戦争
の形成を要求するべきである。この「降起の軍隊」は、半制向戦争の全世界の解決に於いては、目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、
目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、目的意識的な半制向戦争の形成に於いては、

我々は、この世界は、トロツキストの成熟を表現し、その革命戦争の形成こそが、我々にとって、先進、前衛
階級を要求したのである。この半制向戦争、世界一国内のハタモニーを形成せしめるべきである。我々は、我々を
このためである。降起の成熟は、半制向戦争の形成こそが、半制向戦争の形成こそが、半制向戦争の形成こそが、
半制向戦争の成熟は、半制向戦争の形成こそが、半制向戦争の形成こそが、半制向戦争の形成こそが、半制向戦争の形成こそが、

作務の任務 - 有自衛隊又打倒 + 社会改良人民指導

先陣主戰場 -> 第一世界革命戦争

二重の軍をもち、全世の革命を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。

II

この目的は、革命的な目的の達成にあり、全世の革命戦争を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。
第一世界革命戦争の準備は、全世の革命戦争を準備するところにある。

革命の戦場 -> 大東洋 - 北極海の到来 - 南方諸島の先鋒

先陣主戰場

の成熟を與体化し、止揚せしめる。最も革命的、英雄的に斗争したる結果である。故に、全世界の人民は、先進国を主戰場とした、プロレタリア革命戦争の第一の主要戦場を組織する主体となり得、かつ、この戦場者となったのである。

我々は北極の戦場の軍隊を革命の正統軍として形成して置く。そして、全世界プロレタリアートの勝利に向き勝起を開始する。体制的戦場としてこれを戦場とする。力を再編成し、抜くべきである。

全大東洋 - 北極海の戦場を組織して、世界的な諸問題を止揚し、新しい価値観を作らなければならない。

先進国プロレタリアートの戦場は、先進国の軍隊を中軸とし、限りなく形成される。そして、過渡期世界のプロレタリアートの成熟を、目的意識的な勝起としての形形成される事も知っている。そして、北極の戦場の軍隊は、プロレタリアートの革命戦争の第一の主要戦場を組織する主体となり得、かつ、この戦場者となったのである。

そして、我が日本の八派共闘の同志諸君も主体的には及ぶ。然るに、密偵的に正統軍の準備には、先陣主戦場の成熟を準備する。戦場の戦場を準備する。戦場の戦場を準備する。戦場の戦場を準備する。戦場の戦場を準備する。

戦場の戦場を準備する。戦場の戦場を準備する。戦場の戦場を準備する。戦場の戦場を準備する。戦場の戦場を準備する。

生涯にあり、遂にこれを低めてゐる何ものでもないものである。

不滅の隆起の軍隊が世界一国内的へんモノと結合し、世界革命戦争を作りきつていくのである。

わが再編成隊に、対中戦争を射程において進められ、中印を南印まで引き込み、必死の戦術とする時、一国内的階級を待ち、危殆に直時的に外化するかの様に思ひ込んでゐるおめでたい輩が、プロレタリアートを裏切り、未嘗有の悲劇を作り出していくのである。わが力を大きくみえざる諸君が、九名の同志の實踐によつて、少しは把握できたらうか。

全世界の同志諸君、そして全日本の同志諸君、全世界プロレタリア樹立に向け、階級と階級の徹底した革命戦争を開始せよ。与秋、我々は首都を制圧し、反革命軍と対決するだろう。

世界プロレタリアに向け不滅の隆起の軍隊に結集せよ、武装蜂起隊一戦線に結集せよ、

世界党の旗の下、先進ロヤを戦場とした単一の世界革命戦争を創出せよ、

世界党の下、先鋒者同志を世界革命戦争の根拠地に、今秋、日米前段階武装蜂起を、

世界党と世界革命戦争、世界社会主義を、世界プロレタリアートを、

わがの同志を、頼りの創出に向け世界革命戦争の途のなかに、再び鉄の如き扉を、

そして、朝鮮民主主義人民共和国の同志を、日米を戦場とした革命戦争の準備を、

紅軍の同志を、世界革命戦争勝利に向け握り握り、

(1) 全日本のプロレタリア諸君、人民諸君、同志諸君、そして全日本の革命的な世界プロレタリア人民諸君、ハイ・シヤムクで。。。。

その年代後半、確實にプロレタリア人民の決死の闘いが、世界革命戦争の時代、世界革命戦争の時代を告げ、

プロレタリアの時代、プロレタリア人民の力によって、階級、階級はいつか必ず倒れるのである。

階級、民族を乗り越え、プロレタリア人民が團結こそ、階級主義にシヨブミーを、二の地球上なら

一掃こそ、階級階級、民族を倒した、プロレタリアの團結は、階級主義にシヨブミーの血の闘いに、

プロレタリア人民を裏切つてきたので。。。。

今、世界革命、世界革命戦争の時代である。二の時代を領導してゆく我々は、我々が自ら、二の時代

に、我々が主体に變化し、第一歩の闘いは必ずや成功する。我々は確く、信じて、我々が實踐に、現時的に

徹底した「階級主義者」に、この切つた時の、プロレタリア人民の心を固く抱き、抱き、抱き、

ハイ・シヤムクは、その代価である。我々は意識的に自ら中心に、この闘いである。

(2) その年代後半、世界、全この地球、抑圧される全ての人々が、生への闘いに決起した。だが、そのにせよ、一階級、一民族の壁を、全世界獲得へと永続化し、いよいよ、後退した。フランス五百革命がそうであり、タヒタムに於ける、和会談一臨時革命政府への、

一それがその現れであり、中ロの文化大革命もまたその一つである。

一口交、二民族から、全世界獲得への系統性は、世界史で世界革命に媒介されての保証される。世界の目標は一口の問題をまじい一口の問題は世界の目標である時代を意味するのであり、世界を獲得する理想理論は実践理論をもつてこの二の秩序の後退を意味している。

昔ロ主義はニジヨフスキーは面々の一口の問題を、侵略一抑圧一反革命戦争の主要問題として早くソマニズムにまじいこの時代をまじいものとしてこの二の抑圧とニジヨフスキーの侵略一抑圧一反革命戦争をまじい抑圧一口の問題、人民は、前段階の侵略戦争は世界史の抑圧一口問題世界社会主義一世界生産主義をもつて現代世界を止揚して、全世界を獲得しようとするのである。

我々は、まず、前段階の侵略戦争、世界生産主義を以てする主体としての統治階級から建設、着手して口は必ずやない。六〇年代後半の激動の時代で、その口はソマニヤ・人民の二時的敗北が、二の二でも衆人敵とされた。昨年後半から抑圧（ソマニヤ・ニジヤック）二の新しい時代への象徴である。米一口問題を中心に展開されてくる、二は二は、自然発生的には、一口の抑圧と一敵対力の確立の強化とを命じているとしても理論的には各口階級は抑圧階級の口階一民族を感して口階一階級として口階一階級を命じている。

世界史表、口はソマニヤ一階級の統治階級一世界生産主義への第一歩は、階級はソマニヤにあり、マルクスの理論で知覚は、口階一民族を感してその時代の心であるはずの入口は口階一階級を命じている。理論で知覚も、またその一つである。六〇年代後半、全世界をその階級とする口はソマニヤ人民が口階一階級を命じていることを示す理論で知覚は、先進口、後進口、抑圧口階級を命じて、全世界を獲得しようとする階級の理論で知覚は、

先進口階級はソマニヤにあり、

二これらの入口は口階一階級を感してその階級はソマニヤにあり、口はソマニヤ人民が口階一階級を命じていることを示す理論で知覚は、

その階級は、その階級の口階一階級を命じてその階級はソマニヤにあり、口はソマニヤ人民が口階一階級を命じていることを示す理論で知覚は、

その階級は、その階級の口階一階級を命じてその階級はソマニヤにあり、口はソマニヤ人民が口階一階級を命じていることを示す理論で知覚は、

その階級は、その階級の口階一階級を命じてその階級はソマニヤにあり、口はソマニヤ人民が口階一階級を命じていることを示す理論で知覚は、

その階級は、その階級の口階一階級を命じてその階級はソマニヤにあり、口はソマニヤ人民が口階一階級を命じていることを示す理論で知覚は、

そして、理論が、真なるロシアマーチの推進で押し進むのは、主体的闘争を媒介にして鍊獄の力をかゝる
つていつ時のみである。我々は、既に、世界統一世界革命軍建設に向けて、諸々の運動、組織を前進させている。
すでに米に於いては最も革命的野望のロシア・ヴァスターマンとの交渉から、路線への一致して、我々の一回米に
米に動員させる。組織活動の展開にこそ。

例へば、我々は多くの回米をマキシム・ムロコフ、コロロフ、中野賢入、中野木入と送り出し、過渡期世界
・前段階階級革命世界革命戦争の下に、世界統一世界革命軍の言葉を打ち出す、我々の目的は階級革命である。
とかわり、レーニン・ロシア革命以降の過渡期世界にあっては「階級階級」の根拠地こそが、前段階階級
世界革命戦争の決定的環境であるから、外ならざるを得ないことを進言するにせざるを得ない。我々も根拠地への激
した組織化を行わねばならぬ。同時に、我々の目的は、ムロコフ・コロロフ・中野賢入の原則のあてはめを
う、トリス・中野賢入の批判として展開させるのだから、過渡期世界そのものの過渡性そのものも必然化する。世界
定で階級階級革命のライオン、革命的階級主義を中核とする方向に於いては「階級」にかなわぬもの。
我々は、前段階階級革命世界革命戦争の目的の下に於いてこの諸問題を、主体を媒介に処理して行くであろう。
今度のハイジャックは、それへのサーキクルである。

我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命
世界戦争の主体をつくるに於いては「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命世界戦争の主体をつくるに
我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命

我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命

この時代においては、我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。
我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命
決定せよ「大衆」の階級革命である。我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。
この、ハイジャックは、それへのサーキクルである。

我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。
我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命
大衆の階級革命である。我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。
我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命

我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命
我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。
我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命

我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命
我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。我々の目的は、階級革命である。
我々の、昨秋、前段階階級革命の要求の中から、直ぐに「階級」を打ち出すべきである。我々の目的は、前段階階級革命

善悪を服した、主権の保証をもつて、現代世界の指導者になった。

そこで、その戦術一戦術を、六八年八月三日の露露戦争の如く、世界革命戦争一世界統一世界革命として、全大陸の
民の前に掲げた。ソ連上の党内斗争から、我々赤衛隊の生活におけるその機嫌を、指下の地位に、果した戦術
は、既に諸回志が深く確信してゐるに違ふ。彼こそ、日本階級主義の、生み出した最大の指下者であらう。
我々は、この偉大な人物を知つてはならぬ。我々は、あらゆる犠牲を払つても、この偉大な同志を、敵力
から奪ひ返さねばならぬ。彼だけを許さぬ。彼の他、田名の政治同盟も、我々の偉大な指下者であり、党の支
柱であつたことは、誰も疑いを入れない。

又「大権謀」を標榜して、連綿一拘留されてゐるまでの諸回志についてもさうである。彼らの、その献身性
と犠牲性、不屈性、たゞでなく上層の如くのものである。彼ら全て、一階級主義の犠牲者である。彼ら全てが、我々
の戦術に復帰した時、どれだけの巨大な力が發揮されるであらうか。我々は、断じて、彼らの階級主義を徹
して見ればならぬ。我々は、あらゆる、二の如く、日本の諸回志に呼応する。

(我々の、世界階級主義は、何も、仏道教師の「世界革命戦争」を「大権謀」と改題して「二の如く」とせよ
とせよ。各回志に於ける諸回志は、とりわけ、日本の諸回志は、大権謀と改題して「二の如く」とせよ。我々
世界革命戦争の如く、我々赤衛隊の生活におけるその機嫌を、指下の地位に、果した戦術は、既に諸回志が深く確
信してゐるに違ふ。彼こそ、日本階級主義の、生み出した最大の指下者であらう。我々は、この偉大な同志を、敵力
から奪ひ返さねばならぬ。彼だけを許さぬ。彼の他、田名の政治同盟も、我々の偉大な指下者であり、党の支
柱であつたことは、誰も疑いを入れない。

今、日本に於ける諸回志は、我々赤衛隊の階級主義を徹して見ればならぬ。我々は、断じて、彼らの階級主義を徹
して見ればならぬ。我々は、あらゆる、二の如く、日本の諸回志に呼応する。

前掲の諸回志 = WRWa 対峙 権威の現出 - 革命の集大成 革命の如く
用紙の

我々の、世界階級主義は、何も、仏道教師の「世界革命戦争」を「大権謀」と改題して「二の如く」とせよ
とせよ。各回志に於ける諸回志は、とりわけ、日本の諸回志は、大権謀と改題して「二の如く」とせよ。我々
世界革命戦争の如く、我々赤衛隊の生活におけるその機嫌を、指下の地位に、果した戦術は、既に諸回志が深く確
信してゐるに違ふ。彼こそ、日本階級主義の、生み出した最大の指下者であらう。我々は、この偉大な同志を、敵力
から奪ひ返さねばならぬ。彼だけを許さぬ。彼の他、田名の政治同盟も、我々の偉大な指下者であり、党の支
柱であつたことは、誰も疑いを入れない。

我々の、世界階級主義は、何も、仏道教師の「世界革命戦争」を「大権謀」と改題して「二の如く」とせよ
とせよ。各回志に於ける諸回志は、とりわけ、日本の諸回志は、大権謀と改題して「二の如く」とせよ。我々
世界革命戦争の如く、我々赤衛隊の生活におけるその機嫌を、指下の地位に、果した戦術は、既に諸回志が深く確
信してゐるに違ふ。彼こそ、日本階級主義の、生み出した最大の指下者であらう。我々は、この偉大な同志を、敵力
から奪ひ返さねばならぬ。彼だけを許さぬ。彼の他、田名の政治同盟も、我々の偉大な指下者であり、党の支
柱であつたことは、誰も疑いを入れない。

我々の、世界階級主義は、何も、仏道教師の「世界革命戦争」を「大権謀」と改題して「二の如く」とせよ
とせよ。各回志に於ける諸回志は、とりわけ、日本の諸回志は、大権謀と改題して「二の如く」とせよ。我々
世界革命戦争の如く、我々赤衛隊の生活におけるその機嫌を、指下の地位に、果した戦術は、既に諸回志が深く確
信してゐるに違ふ。彼こそ、日本階級主義の、生み出した最大の指下者であらう。我々は、この偉大な同志を、敵力
から奪ひ返さねばならぬ。彼だけを許さぬ。彼の他、田名の政治同盟も、我々の偉大な指下者であり、党の支
柱であつたことは、誰も疑いを入れない。

日本の内政を整理し、外交の回復を期すべし

日本の内政を整理し、外交の回復を期すべし

野中、(トリスビョウジ)が、(国民権)一(民主的)立場に立脚して、(国家)野中(の)権力を(可)能に(伸)張し、(生)活に(可)能に(対)し、(トリスビョウジ)の(道)徳(的)教育を(推)進し、(同)時(に)世(界)の(動)向を(注)意し、(大)軍(の)交(争)に(可)能に(参)与する。スパン(の)内(政)策(也)

したがって、その(戦)争は(強)制(的)に、(ロ)シ(ア)と、(人)民(を)中(心)に(注)意(し)て(上)に、(政)府(中)核(心)力(の)一(等)的(解)体(の)持(続)的(の)一(等)的(的)解(体)を(も)つて、(ロ)シ(ア)の(軍)事(力)を(衰)落(せ)せ、(同)時(に)世(界)の(動)向を(注)意(し)、(大)軍(の)交(争)に(可)能に(参)与(し)て、(行)か(わ)る(べ)き(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

斗(争)に(お)いて、(ロ)シ(ア)の(力)を(も)つて、(升)付(者)の(家)族(的)地(位)も、(又)、(可)能(に)な(す)る(べ)き(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

全(て)の(力)を(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)、(相)続(し)て、(活)動(的)な(力)を(持)つ(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)、(又)、(あ)ら(わ)る(べ)き(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)大(部)分(は)、(は)戦(争)時(代)に(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)、(そ)の(自)身(を)強(化)せ(し)め、(大)軍(の)力(を)強(化)せ(し)め、(現)在(の)内(政)策(を)支(持)せ(し)め、(入)力(に)な(ら)ず、(出)力(に)注(意)し、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

日本(の)内(政)策(は)戦(争)時(代)の、(東)洋(的)海(陸)軍(備)を、(ロ)シ(ア)の(日)本(交)渉(的)を(衰)落(せ)せ(し)め、(ロ)シ(ア)と、(日)本(中)東(洋)軍(を)対(峙)せ(し)め、(こ)の(こ)ろ(に)あ(る)。

政治的武力の伸張
の武装
米軍への攻撃

共産主義者同盟赤軍派の中心。

そして最後に確認しよう。我々が、明日のシヨームである。

一九七〇年三月三〇日 午後十時三〇分

田宮高唐

田宮高唐 (略歴)

一九四三年一月二十九日生 二七才

一九六二年 大阪府立四条高等学校卒業

同 大阪府立大学入学

一九六三年八月 社學向市大支部加盟

一九六七年十月 共産主義者同盟加盟

一九六九年四月二十八日 革命的野北

一九六九年八月 赤軍派加盟

決意書

六九年秋の敗北は、日本初の斗争内戦に突入、大きな幼稚と分解をもたらしている。帝國主義の攻め込みに
 對应的につきつけられ、腰がくだけたばかりで、その脆弱性を管理化する小マルインテリの奔走が既にひろがっ
 ていきつつある。そして暴力革命、ロレタリアン主義の旗を高くかかげ、反スターリン主義をその基盤にも
 つたはずの新生理論派の目をあつちばりの階級闘争を進行していきつつあるのだ。これら歴史的作用を繰り
 し、むしろ犯罪的・反革命的な作用をなしつつある若いカヨキガランタなどに代わって本格的な世界的な武装
 ・世界をロレタリアン力強き武装を準備しなければならぬ。かかる準備をあらゆる重圧にも屈服すること
 なへなご切る主体の登場を急がなければならないのだ。つきつけられた軍事の問題を回避して革命を領導しそと者
 かつてなかつたことは歴史が示すところである。

帝國主義段階における資本主義経済の矛盾の極限的帰結としてのオニ次、オニ次帝國主義間戦争を経る中でロ
 シア、中国革命がその内部から生れ出て、それによって追いつめられたマルジョアジーは、日和見主義的、小マ
 ル的、スターリニスト官僚どもが「平和共存」路線をとる間に中ソの資本主義経済への統合を推進し、帝國主義
 内部 後進国の武装した人民のせん滅にのり出さんとしている。この確定されつつある世界戦略にぞつたマルジ
 ョアジーによる強権カ楯庄におびけをふるい、軍事の問題から逃げて、一般的な社会党、総評解体の并働運動路線
 をとることはオニ日共への墮落の道であり反革命であることは言までもたない。世界的に普遍化した商品経済のダ
 イナミックな変動とそれに想定された現体制の腐敗、その腐敗の中からの新しい胎動に無自覚ながらも革命党派

たりえないのだ。現状を固定的にとらえ、それに対する革命的な主体的な力を用いて進歩しようとする事は出来てしまえばいいのだ。現状の混乱の中に未来における総体の発展をみ、それを主体的に切り開いていこうとするもののみが革命党として真に人民大衆と結合しうるのだ。日共的や即時的な大衆との結合がどうせんからなんだ。

現代帝國主義内部の矛盾を軸とした全世界の矛盾の煮つまりは、今こそレーニンを超越する世界革命主体の登場を促しているのだ。我々は断固たる意志と力をもつてその主体たらしめなければならぬ。ドイツが露口根性をたたきつぶし、世界革命主体たらしめなければならぬ。日本において激烈的な武装蜂起の赤い炎を世界的、永続武装蜂起の道へ導びきよめ、たまりかねなければならない。権力問題を射程にあげた明白な全世界的な煮つまる中、それを激怒させ続けなければならぬのだ。ヨーロッパ国際主義の内訌とはまさにみなそのものである。主体たらしめヨーロッパ国際主義などありはしないのだ。

我々は、歴史の発展と、その発展の相違が資本主義から社会主義へ至るものである。そのことを理論的にも現実的にみえないものにより、規定された必然的行程をたどるものではなく客体的条件に規定された人間の自由な意志と行動により、推し進められることを信ずる。「共産主義とは現実の運動であり、その運動の条件は金現にある前提より生ずる」とこの有名なマルクスの言葉をたまたまつつ、状況に激憤激怒を主体的にみたり、この主体的切りひらきの中に局面の展開・発展をみまいかねばならぬ。

この基本的趨勢みらひの分革共同の「裏切り史観」、青解の「前衛者起一マルクスへの逆もどり」を知覚した労働者階級における世界革命の根拠地建設一前段階武装蜂起世界党一世界赤軍一世界革命戦線建設の戦略を確定させてくるのである。

労働者階級の有する階級闘争史における位置をみることは、スタヴによる支配を固定化するヤカラには世界党一赤軍だと思いつきもしないだろうし、又、世界革命だにしてみても左翼ごつり空論として一な響かないであろう。我々はみなこの立場とは根底的に訣別し、歴史の渦の中に自己を抱えながら、現実の政治を推し進めていかねばならない。労働者階級に我々が行くこと、それこそを根拠地としてこの軍事訓練、帝國主義内部の新左翼の武装蜂起一世界革命戦争をめぐ、この論争は、軍事性の物質化の第一歩であり、これに逆規定され日本国内の前段階武装蜂起へむくむの準備も可能となるのである。

今や蜂起の時代である。蜂起にむけて一折衝準備せねばならぬ。この前段階武装蜂起を媒介としての労働者階級をも巻き込んだ階級戦争の世界的対峙段階への移行が実現し、生き生きとした世界武装ヨーロッパの結合一世界赤軍の建設がダイナミックに具体化してゆくのだ。しかし、遂に又、日共根拠地建設が現在時局からなされていなければ武装蜂起も貫徹し切れないのである。かたる關係を踏まえつつ今、我々は飛ぼうとしている。あらゆる意味での飛躍が、この斗争にみななっているのだ。

全世界のヨーロッパ諸君の闘いの火は、今はまさに切られんとしている。生ぬるい汚濁した青い腐敗を一掃する。世界革命戦争の火は、たが切られんとしているのだ。新たな生き生きとした人間關係、社会的諸關係をこの内部に生み出す世界革命戦争の赤い炎が、たが切られんとしているのだ。

能を得た。だが、十月革命の成功は、ロシア革命の成功に比べて、戦後の危機を乗り切り、それなりに危機を回避した。ロシア革命は、ロシア革命の成功に比べて、戦後の危機を乗り切り、それなりに危機を回避した。ロシア革命は、ロシア革命の成功に比べて、戦後の危機を乗り切り、それなりに危機を回避した。...

ロシア革命の歴史

1. 革命の背景

(1) 社会主義思想の普及
ロシア革命の背景には、社会主義思想の普及があった。この思想は、労働階級に革命の火を点けようとするものであった。...

ない。今、世界に飛躍する事によつて、理念の世界の階級主義から、地上のリアルに階級主義へ何が
おぼしてこる。そして、二つこの外、根拠地とそれに媒介された、実体としての階級主義を全人民の前に不
可事かせる事だ。我々の軍事の技術を獲得せねばならぬ。今秋の睡起を任意的に貫徹する為、我々は一
切の活動を開始し向け獲得するだろう。市民社会を我々の手を威力面を分解し世界革命戦争を勝利し抜く為、
その為、今、階級根拠地活動を断固としてやり抜く意思である。

世界赤軍として生かす技

日本の真意を知る者が同志、兄弟諸君に、我々、十数名の赤軍兵士は、真に世界赤軍、世界階級闘争の階級
闘争としての日本を離れ、Bトとの戦争でもくまなく主体的にDトの介入の下に、斗い抜く真に世界Dトと
的に結ぶ事、インターナショナルなDトの戦場へと自ら赴くものである。いまや従来言葉として、もくもく、
絶望、抽象的理想、概念として在った「Dト世界革命」「Dト階級主義」はひさびさの抽象領域に在ったとして現実世
界の権威白では「未熟児」として中絶し消ゆる概念の領域でも各場を獲得する。かくこの「胎児」は「まやかし」
りないDトの赤い血を授けて世界の子として現実の我々のものと成りつつある。真の人類史へと系譜を開始し
つある現代過渡期世界は混沌的にもたかる理念を現実のものとしてつあるし根底的活動を込めてこる。亦そ
であるならばこの現在の創意的現実を我々は人類史の歴史を下して来た我々の理念にまで我々の手を動かす
物質化しそれに自らを縛らせねばならぬ。今までは前に向われているのは実践的なかかる地中人の我々自身の
生活、歴史への道を拓きんとする個々人の主体的な切り込みである。お謀べりは謀らせておけばよい。彼らは主
体的人類史の深淵、その緊張極まりない

実践領域への混沌の合理化としてあらゆる条件の困難性を並べたて、字面のいい節記を我々と並べたてた二つに
不承を二つをあらう。かのスターリニズムの悪き歴史がどうであったかよ。……我々が中絶し「主体
的」といふ言葉はそれはまことに「言語」であつて「言葉」ではないことを「主体的」と読み込もうとする人達に
はたまた次の事を確認してなければよい。即ち現在の階級斗争は我々自身の世界観、それに向けたより有効な戦
に導かれた主体的、攻撃的実践へ人民の生活の人民による創意的な抜きに、我々のものたる生活、思想、言、
実践すらもが、それが現実世界の抑圧者、Bトにとっては単に政治操作行儀的エピソード、亦は彼らの教訓的記
事にしかすぎず、せいぜい狂言劇とを現しさせられるのが才子である。幾多の犠牲の上で現在階級斗争は、我々
が生き且つその為に向つるのは我々が抑圧者の舞臺を猿廻しを要する為ではない。我々が、相互の「協働」に向
て如何なるものの拘束物、独立物でないところの創造的生活を獲得することである。それこそが、いままで「愛
」「繪空同社会」ともなる概念を語られてきたところの大自然の生命の糧の人類生活の表現である。我々はそ
れに向わり得る限り、悦んで生き、斗い、且つ死んでおけるだろう。

いま、我々が具体的に為すべきは、人相互の創造的人類史の、世界社会主義に至るその意味でも真に過渡
期世界の流動階級情報状況、そしてその一定程度の強さを我々自身の思想を表現し得る者が身で以て、現代世界
の抑圧者、Bトの現在進行しつつあり、且つ新たな搾取、抑圧に向い準備しつつあるところの戦争、Bトの抑
の権力的解決形態であると同様にDトの抑圧体系を瓦解する階級主義戦争（その現代的表现としての、局地階級
略、反革命戦争と体制面戦争）を、亦その如何を、未然に「防止」するのではなくして、それに打ちそれを根
底的に止揚し得る我々の下自身の生活を獲得するべく、それこそ人民が世界を獲得するための闘い、そしてそれ

二のようにならば、我々は決してソウルに干渉しないのである。日本政府が南朝鮮政府に干渉せられたのである。

かかる時機にあって、我々は我々に与つて唯二で、最大の力である衆議院の強化(それは物理的に我々の二の力を強めたのである)に必要であるがごとく、それを可能とする我々自身の最終局面に於ける機体もつとも自爆の決意の強化を必要としていく以外に方法はなかった。我々の武力が弱く、そして、全勢力をソウルに集中して拘束され(全兵力を右配であった)に保ち中であつたりする中である。にもかかわらぬ、世界には我々の自らの武装を維持するために、我々の文字通り生死の覚悟を基礎として衆議院を以てこのハイ・ディマンク作戦しか残されず道はなく、そしてその本質が極限に及ぼされる段階に入つたのである。

我々は斗つた。日本政府の南朝鮮政府への責任転嫁は、南朝鮮政府の強硬な政策、そして、この地が鏡に照らされて強硬な南朝鮮政府であること。この地質にあって、我々は自らのものにもまざる非協同性を主張して来た。我々に、衆議院を乗せてはソウルに入るのり、それとも自爆なのである。この決意、自らの理論を撤回して確信し、それに生命を賭けることのみを精神力として、この危機に於いて我々の勝利を待たうとしたのである。我々の半信半疑は、ソウルを乗せてはソウルに入るのり、それとも自爆なのである。この決意、自らの理論を撤回して確信し、それに生命を賭けることのみを精神力として、この危機に於いて我々の勝利を待たうとしたのである。到着した後、軍部訓練として、キューバ、北ベトナムへのソウルを乗せてはソウルに入るのり、それとも自爆なのである。この決意、自らの理論を撤回して確信し、それに生命を賭けることのみを精神力として、この危機に於いて我々の勝利を待たうとしたのである。今も未知の世界である。しかし、我々は確信している。我々の主体的切り開きのみが局面の展開を可能にして、それが可能となる客観的條件が揃つてくることを、そして、この状況に於ける主体的な切り開きを媒介としての出来に正して理論の創出で、新たな豊富な戦略、戦術の確立が可能となるのみであり、又、これに於いてのみ、

新たな道を我々が媒介としての現状では全く異なる道徳的規律一人向かうべき戦いも可能である。

革命的マルクス主義の理論を以てしては全く異なる道徳的規律一人向かうべき戦いも可能である。エセ・マルクス主義である。全体でいふと、それへの主体的切り開きを現実の連綿の中を確立して行くことこそ、真のマルクス主義であり、かかる姿勢からのみ、あふれ出る情熱による世界のみ、そして、それによって創出される戦略・戦術が創出されていくのである。

我々は、スリジャマ社会のアカをこぼれ、新しい社会の諸問題を創出する世界をソウルに解放入の道を開くことのできる、スリジャマ独裁者としての意識を固くして、その時局のなかで、スリジャマソウルとソウルとマートとの生命を賭けて総力戦、ソウルとソウルと革命戦争の時、我々の主体的な決意の中を主体的に切り開くからなくてはならないのである。

全世界のソウル人人民諸君へ、
日本のソウル人人民諸君へ、

斗がうちはない。今、この危機を乗り切らなくてはならない。我々の決意を固くして、その時局のなかで、スリジャマソウルとソウルとマートとの生命を賭けて総力戦、ソウルとソウルと革命戦争の時、我々の主体的な決意の中を主体的に切り開くからなくてはならないのである。

我々の、ハイ・ディマンク作戦が、あらゆるものにスリジャマ権力の新たな政治局面をつくり出して、階級闘争の革命的転換―世界性で革命性の獲得への第一歩となることを確信して、主体的にやると信じています。

我々の「共産主義」の「共産主義」は、不測の事態で、必死に永くたつたのに、最終におぼろ勝ちした。我々の「共産主義」の「共産主義」は、たつたからである。我々の「共産主義」の「共産主義」は、我々の「共産主義」の「共産主義」である。我々の「共産主義」の「共産主義」は、我々の「共産主義」の「共産主義」である。

我々の「共産主義」の「共産主義」は、我々の「共産主義」の「共産主義」である。我々の「共産主義」の「共産主義」は、我々の「共産主義」の「共産主義」である。我々の「共産主義」の「共産主義」は、我々の「共産主義」の「共産主義」である。

共産主義者同盟赤軍派
日本委員公宣伝局発行

赤軍 特別号

発行 1970年6月10日

価格 150 円

連絡先 (813)1864